

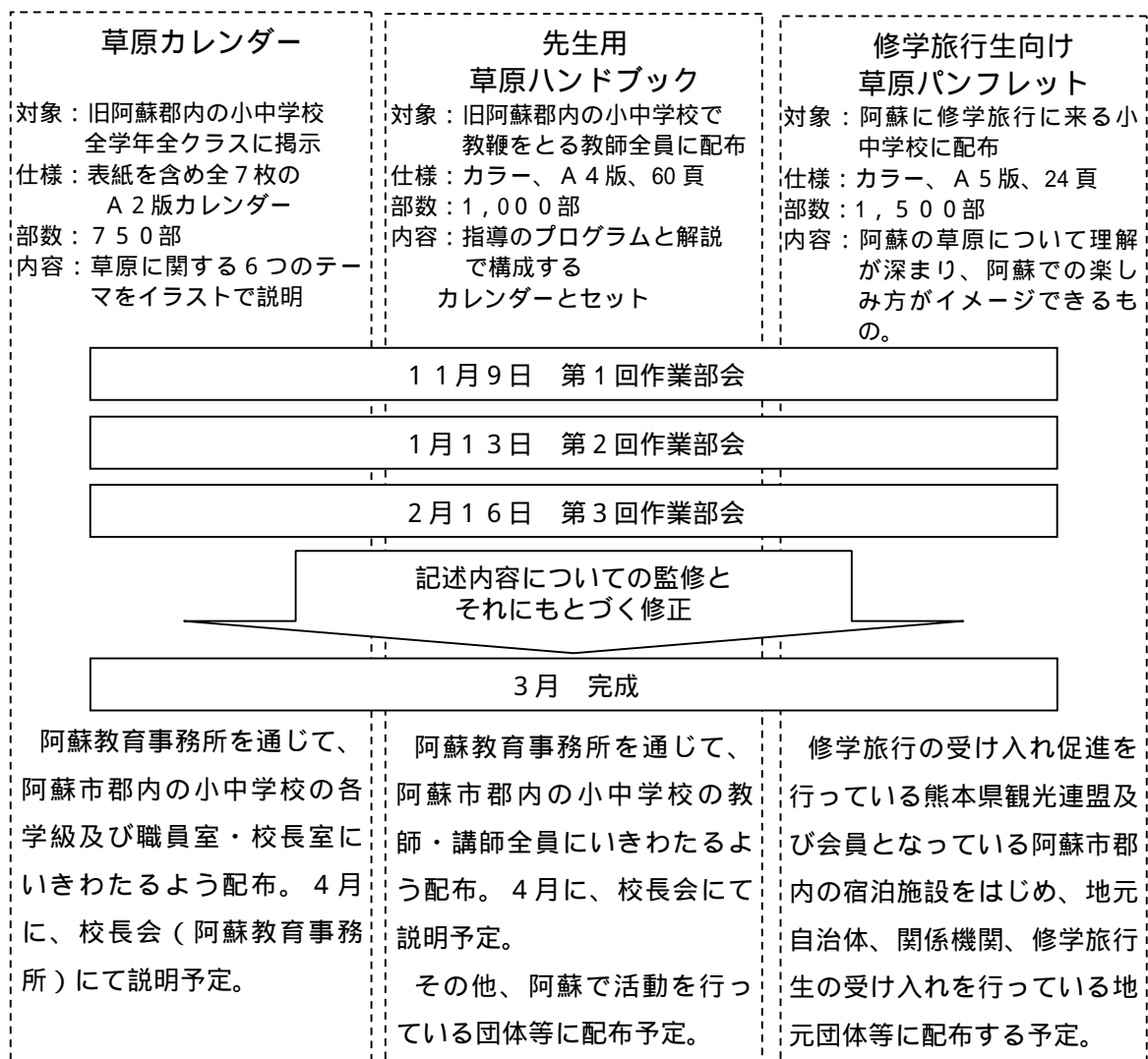
### III. 環境学習の推進に向けた教材づくり

#### 1. 教材づくりの趣旨

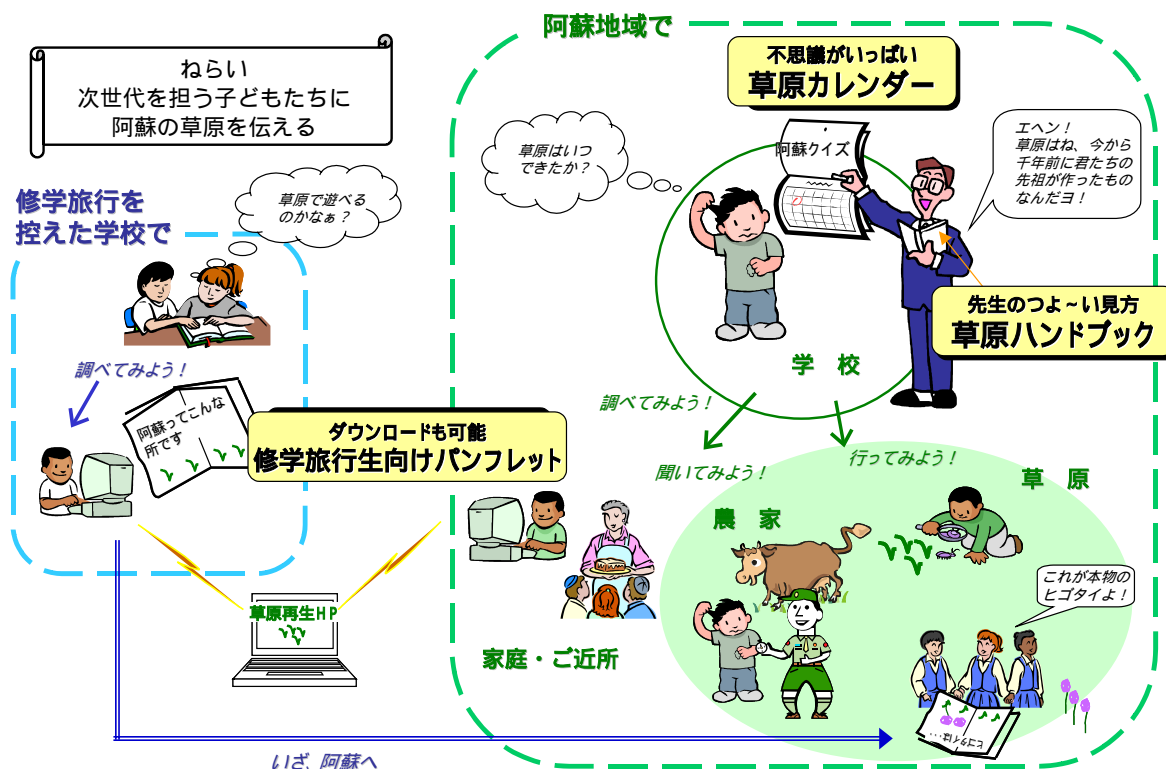
阿蘇の草原保全・再生に向けては、草原とふれ合う機会が減っている次世代を担う子供たちに草原のことを伝え、その価値に気づいてもらうことが重要である。そこで、阿蘇の草原について、そのスケールや歴史、多様な価値などからみたすごさ、大切さ、さらに人の手をかけてつくられてきたものであることなどを、阿蘇地域内の子供たち、また阿蘇を訪れる子供たちに伝え、草原に関心を持ってもらうことを主眼として、教材づくりを進めた。

#### 2. 教材の内容と完成までの流れ

企画・内容については、教育関係者5名をメンバーとする作業部会を下記のとおり3回（各回約3時間）開催し、主に教材の使いやすさ、読みやすさの観点から検討を行った。その後、監修協力者5名に記述内容等を確認いただき、3月に完成させた。



図III-1 環境学習教材の展開イメージ



<p>カレンダー及びハンドブックで伝える6つのテーマとそのねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4・5月 阿蘇のなりたち、そしてその魅力</li> <li>6・7月 暮らしと草原 - 放牧で草原が守られる -</li> <li>8・9月 草原と、そこに暮らす生き物たち</li> <li>10・11月 暮らしと草原 - 草は大切な資源 -</li> <li>12・1月 九州の水がめと呼ばれる、阿蘇</li> <li>2・3月 暮らしと草原 - 火とともにある暮らし -</li> </ul>	<p>ハンドブックの構成</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テーマとねらいについて カレンダー及びハンドブックで伝えたいテーマと、そのねらいを示す。</li> <li>2. こんな風にやってみよう! 子どもたちに、いつ、どこで、何を、どうやって教えればよいか。そのきっかけとなる学習プログラム例を列挙する。</li> <li>3. 解説 プログラムを行う上で、また阿蘇の草原についての理解を深める上で必要と思われる、阿蘇の草原に関する基礎的な話題を解説する。</li> </ol>
<p>修学旅行生向けパンフレットの構成</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 表紙</li> <li>2. 導入 (草原のイメージとパンフレットの紹介)</li> <li>3. 草原のすごさ (景観、動植物、水)</li> <li>4. 草原の成り立ち (人の営みと草原)</li> <li>5. コラム「牛から見た草原」</li> <li>6. 草原の現状 (草原の危機、草原の保全・再生に向けた取り組み)</li> <li>7. 草原の楽しみ方 (草原マップ、見所紹介)</li> <li>8. 阿蘇の概要 (地勢・人口等の基礎情報、草原で観察会などを行う組織等の紹介)</li> </ol>	